

# 遠

三年  
 曲数 13  
 筆順 吉 步 亨 袁 遠  
 オン エン・オン  
 フン とおしい

成り立ち

遠 ↓ 遠 ↓ 遠 ↓ 遠 ↓ 遠  
 遠 ↓ 遠 ↓ 遠 ↓ 遠 ↓ 遠

たけのながいきものをあらわした「衰(衣の中にある)〇〇が音をあらわす)〇〇に「みちをすすむ」いみの「遠」をくわえた字で「ながいみちをすすむ」といういみで「とお」ことをあらわしたものです。

「エンは漢音で、オンは呉音である。呉音は「久遠(ときがおわることなくつづくこと)」など、仏教の言葉にわずかに使われているだけで、ほとんどが漢音で読まれる。」

使い方

▽望遠鏡で見ると、遠景が手にとるように見えます。  
 ▽遠視の人は、遠方にあるものがはっきり見えます。

熟語例

▽遠方(遠くの方。遠いところ)  
 ▽遠景(遠くの景色)  
 ▽遠視(近くのものが見えなくなり、遠くのものが見える目のこと。遠視眼)  
 ▽遠山(遠くに見える山)  
 ▽遠海(りくちから遠くはなれた海のこと。遠洋)  
 ▽遠謀(目先のことにとらわれず、遠いしゅうらいを見とおしたかんがえ。「深謀」ともいいます。)  
 ▽遠慮(慮は「かんがえ」。「遠謀」とおなじいみのことですが、「遠謀したけつか、今をひかえめにすること」のいみにつかいます。また、「ことわる」いみにもつかわれます。)  
 ▽遠慮なければ近憂あり(遠慮は遠き慮り、近憂は近き憂いともよみます。遠慮がないと、近いしんばいごとになやむことになる、遠慮のたいせつさをおしえたものです。)

# 何

二年  
 画数 7  
 筆順 ノ イ 亅 亅 何  
 オン カ  
 フン なに・なん

成り立ち

何 ↓ 何 ↓ 何 ↓ 何 ↓ 何  
 何 ↓ 何 ↓ 何 ↓ 何 ↓ 何

「品もの(口とくべつするために三つかさねた)」をつつんだ「にもつ」のかたちをあらわした「可」と、人のかたちをあらわした「イ」とをくみあわせてつくった字で、「にもつ(荷)」をあらわした字です。

「荷(年264)」をあつかうとき「この荷はなにか」とかならずたずねました。それで「この荷は」といえば「なにか」といういみになりました。

「何」が「なにか」といういみにつかわれるようになったので、「何」に「ナ」をつけて「荷」という字をつくり、これを「に」をあらわす字としました。それで、「何」は「なに」といういみだけをあらわす字になったのです。

使い方

▽あの、はでなふくをきた人は、いったい何者でしょう。  
 ▽ぼくのおにいさんは、幾何のべんきょうがすきだといっています。

▽「おつかいにいつてきてちょうだい」と、おかあさんがいうので、「何をかっくれればいいの」と、ききました。

▽かいだんで、何かおとがきこえたので、何だろうとおもっていつてみると、ボールがころがってきました。おとうとが、かいだんの上から、おとしたのです。

▽兄弟げんかをする、おかあさんは、かならず「何で、なかよくあそべないの?」と、いいます。

熟語例

▽何者(どんな人)  
 ▽幾何(「幾何学」のことで、もののかたちや大きさ、いちなどを、けんきゆうする学問)